

# 第2部 基本構想

- 第1章 鮫川村の将来像
- 第2章 人口の目標と計画の体系
- 第3章 施策の方針
- 第4章 重点構想

## 1 村づくりの理念

総論に基づき、新しい村づくりを進める上で、すべての分野において基本とする原則を次のとおり定めます。

### ① 第3次振興計画の「まめな暮らし」の検証

#### ① 量から質への「質」が高まっていないのではないか

「まめな暮らし」は、環境にやさしい、大量生産・大量廃棄などによる資源浪費をしない生活や生産を目指す暮らし方です。生活の質や付加価値の高い物を作ることが求められます。化石燃料は有限であり、東日本大震災による原子力災害により、再生可能エネルギーの重要性が高まっていますが、まだ課題も多くあります。

また、人口減少社会を迎え私たちの生活を支える仕組みも変えていく必要があります。さらに、経済がグローバル化しており、一人ひとりの能力を高め、外国の人々より良いものを作らなければ、外国の人々以上の収入は得られない時代です。薄利多売からブランド化が求められ、そのためには知識や技術の向上が不可欠です。人口増や経済成長時代の考え方を転換し、量を求める仕組みを直したり、縮小が必要なものは縮小して中身を充実させるなどの努力がまだ足りないと思われます。

#### ② 村で「まめな暮らし」をしているのは誰か

今の若者は、生まれてから、デフレ不況の経済状況や少子化の中で成長してきました。バブル経済時代を知らない少子化世代で人口の伸び率が鈍化し、経済が縮小した環境で育ちました。そのため、雇用環境は厳しく、賃金が抑制され、生活スタイルは手堅い消費行動に代表される堅実なものとなっています。教育では、ゆとり世代とも言われマイナスなイメージが先行している一方、総合学習などにより、調べ学習をしており、これからの時代に必要な環境問題に対する視点や創造的な能力の発揮が期待できる世代です。

他方、年配者は、こども時代の生活は大変だったかもしれませんが、高度経済成長から豊かになった社会を経験しています。

高度経済成長期には、好むと好まざるとに関わらず社会が大きく変わりました。賃金のベースアップ、大量生産、大量消費、消費は美徳の時代を経験しています。村の生活は、都会と比べれば、相対的には「まめな暮らし」だったかも知れませんが、それでも農村の都市化が進みました。農業もまめな農業ではなくなり、専門的な農業者が少なくなり、兼業農家が多数になり、後継者が少なくなりました。農業では暮らしを成り立たせることは難しいという理由から、若者や女性、素人、自分の子どもが業として農業をすることには否定的な世代です。また、人口減少社会、低経済成長、格差社会など時代が大きく変化していることについては、それを理解し不安には思っていますが、それが豊かな社会になった結果であり、これを解決するには、社会

の仕組みから根本的に見直し、そのためには長い年月を要することを、実感として理解し行動することは難しい世代です。また、終身雇用を前提としたグローバルな競争が無い安定した勤め人幻想から抜けきれず、後継者がいても戻ってきてもらっては困ると考えている世代でもあります。しかし、現実には都会や勤め人の暮らしも大変になっています。都会に行っても大部分が前の世代のような収入を得て同じような暮らしができる時代ではなくなっています。

## ② 第4次振興計画に引き継ぐ「まめな暮らし」は

### ① 今までの「まめな暮らし」ってどんな暮らし方

農村、里山の伝統文化、伝統食などの良さを見直し、出来る限り取入れ、環境や資源に負荷をかけない、心やからだによい暮らし方が、第3次振興計画の鮫川流スローライフ「まめな暮らし」でした。

#### ★ 鮫川流の「まめな暮らし」とは

- ・安全・安心、うそをつかない、心によいもの・体によいものを大切にする暮らし方
- ・人づきあいを大事にし、いつも笑顔でにこにこ、ほっとするような暮らし方
- ・不安な社会にあっても、都市の人々のよりどころになるような暮らし方
- ・昔の生活のよいところを取り戻すとともに、環境への負荷をかけない暮らし方
- ・ゆとりの時間をつくり、生きがいや楽しみのある生活を大切にする暮らし方

### ② これからの「まめな暮らし」ってどんな暮らし方

現代は、人口減少、低経済成長、少子高齢化により、すでに「まめな暮らし」の時代に入っているとと言えます。第4次振興計画のこれからの「まめな暮らし」は、今までの「まめな暮らし」の良さを持続、発展させていく暮らし方であり「まめな暮らしの創造」を目指します。

- ・良さの世代間継承（伝統食を科学する。伝統芸能を学ぶ。）をする暮らし方
- ・現代の生活様式との調和、発展（新技術導入、環境負荷のない生活）する暮らし方
- ・「こども・若者・女性」と都市の人々に共感される暮らし方（ICTの活用、自己実現できる環境）
- ・人口減少社会に適応した暮らし方（人口増時代の仕組みの見直し）

## ③ 村づくりの基本理念

人口減少・高齢化社会のなかで、環境と共生しながら持続可能な新しい村づくりを進めるために、すべての分野において基本とする村づくりの原則を次のとおり定めます。

わたしたちの村づくりの基本理念は【原理】は、

## つながりで 支え輝く 村づくり ～ 笑顔あふれる ふるさとの創造 ～

- ・ 村民が世代を超えてつながり支えあい、一人ひとりが輝く村づくり
- ・ 地域の和で支えあい、一人ひとりが輝く村づくり
- ・ 高齢者、こども、若者と女性が地域の和でつながり、生きがいと夢を持ち、自己実現できる村づくり
- ・ これまで取り組んできた「まめで達者なむらづくり」を継承し、さらに進化させていく村づくり
- ・ 先人の知恵や技を継承し、新しい時代にふさわしいものに発展させていく村づくり

### キーワード【つながり】

縁、結、絆、環、循環、人の輪、地域の和、伝承、継承、継続、持続、交流、連携、連帯、協働、協同



## 2 2024 鮫川の将来像

基本理念を踏まえて、村づくりの3つの方向性を定めます。

### ①「まめな暮らし」を生かした村づくり

これまで積極的に進めてきた鮫川流の「まめな暮らし」を生かした村づくりを今後も継承し、さらに発展させ、村全体を地域ブランドとして確立する村づくりを進めます。

### ② 人が集まる美しい村づくり

基幹産業である農業を村づくりの中心に据え、活力あふれる村づくりを進めるとともに、本村ならではの地域特性・資源を生かし、多くの人が集まる美しい（美味しい）村づくりを進めます。

### ③「つながり」を活かす村づくり

人と人、人と地域、都市と農村など多様な「つながり」を活かす村づくりを進めます。

人の輪、地域の和を大事にし、みんなで支えあい、生きがいと夢を持ち、自己実現できる村づくりを進めます。

これらの原則に基づいて6つの将来像（分野別目標）の実現を目指します。

1. きれいで安全なふるさと鮫川の実現
2. 健やかで安心なふるさと鮫川の実現
3. 活力と交流に満ちたふるさと鮫川の実現
4. 人と文化が輝くふるさと鮫川の実現
5. 生活基盤が整ったふるさと鮫川の実現
6. ともにつくるふるさと鮫川の実現



## 第2章

## 人口の目標と計画の体系

## 1 人口の目標

平成22年の国勢調査によると、本村の総人口は3,989人で、これまで減少傾向で推移してきました。

これら過去の推移に基づき、人口予測を行った結果、本村の人口は、今後も減少を続け、本計画の目標年度である平成36年度には、3,100人前後になることが予測されています。

しかし、本村の将来を展望すると、本計画を総合的かつ積極的に推進することによって、定住性が強化されるとともに、村外からの移住者が増加し、予測を上回る人口となることを目指すべきであると考えられ、平成36年度の総人口の目標を3,300人と設定します。

なお、年齢3区分別の人口や総世帯数、1世帯当たり人員は、次のとおり設定することとします。

## 人口と世帯の目標

## ■ 総人口・年齢3区分別人口・総世帯数・1世帯当たり人員

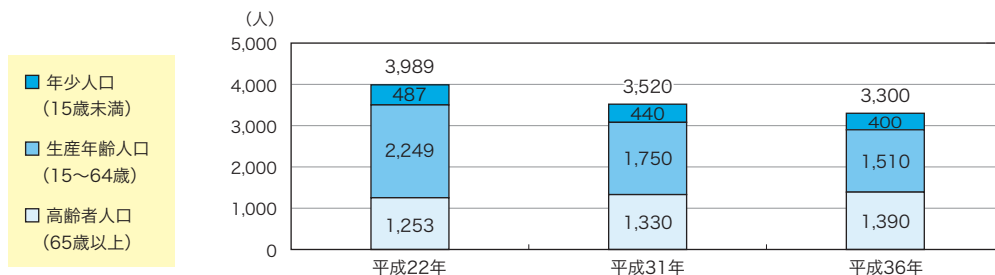
(単位：人、%、世帯)

項目 \ 年	平成22年	平成31年	平成36年
総人口	3,989	3,520	3,300
年少人口 (15歳未満)	487 (12.2)	440 (12.5)	400 (12.1)
生産年齢人口 (15～64歳)	2,249 (56.4)	1,750 (49.7)	1,510 (45.8)
高齢者人口 (65歳以上)	1,253 (31.4)	1,330 (37.8)	1,390 (42.1)
総世帯数	1,106	1,110	1,120
1世帯当たり人員	3.61	3.17	2.95

注) 平成22年は実績値。目標値は、複数の予測結果をもとに本村の将来を展望して設定したものであり、10人及び10世帯単位としている。

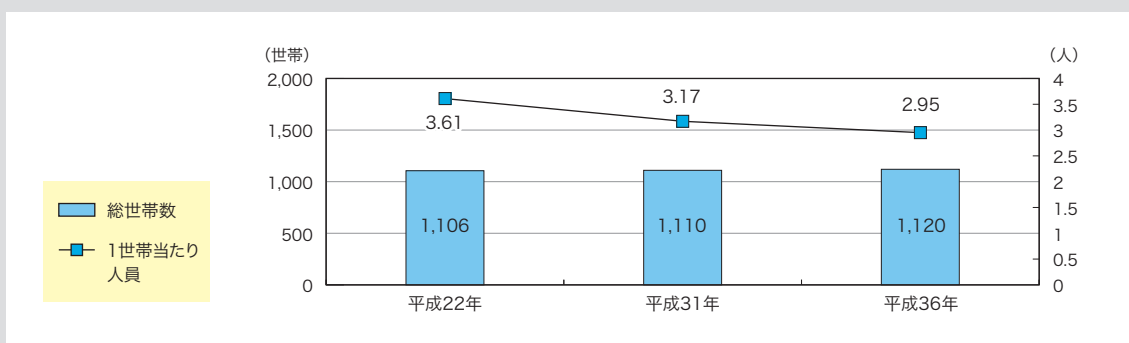
## ■ 総人口・年齢3区分別人口

(単位：人)



## ■ 総世帯数・1世帯当たり人員

(単位：世帯、人)



資料：国勢調査

## 2 計画の体系

将来像の実現に向け、新しい村づくりの計画の体系（分野ごとの目標とその下に展開する施策の項目）を次のとおり定めます。



## 施策の方針

### 1 きれいで安全なふるさと鮫川

- |               |            |
|---------------|------------|
| ① 環境・景観、エネルギー | ④ 公園・緑地、緑化 |
| ② ごみ処理等環境衛生   | ⑤ 消防・防災    |
| ③ 上・下水道       | ⑥ 防犯・交通安全  |

#### ① 環境・景観、エネルギー

阿武隈山系の豊かな自然と心癒される農村環境・里山景観を誇る村として、環境・景観と共生する持続可能な村づくりを進めるため、村一体となった環境保全・美化活動の促進、太陽光等の再生可能エネルギーの一層の利活用の促進、美しい景観の維持・保全に向けた取り組み、環境・景観施策、エネルギー施策を積極的に推進します。

#### ② ごみ処理等環境衛生

廃棄物をできるだけ出さない循環型社会の形成に向け、広域的なごみ・し尿処理体制の充実や村民・事業者の3R運動<sup>※4</sup>の促進、不法投棄の防止に努めます。

また、広域的な斎苑施設の適正管理に努めます。

#### ③ 上・下水道

安全・安心でおいしい水の安定供給を図るため、簡易水道施設の適正管理及び給水区域の拡大、小規模水道施設に関する支援の継続を図ります。

また、美しく快適な居住環境づくりと河川等の水質保全に向け、農業集落排水施設の適正管理及び加入促進、合併処理浄化槽の設置促進に努めます。

#### ④ 公園・緑地、緑化

村内外の人々が水と緑に親しみ、いこい、交流できる場として、また子どもの安全な遊び場として、館山公園や農村公園、遊歩道などの公園・緑地の整備充実、適正管理に努めるとともに、村ぐるみの緑化を推進します。

※4：リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生使用）運動



## ⑤ 消防・防災

東日本大震災の教訓等を踏まえ、あらゆる災害に強い安全・安心な村づくりを進めるため、消防団の充実や白河地方広域市町村圏整備組合による広域的な常備消防・救急体制の充実、村民の防火・防災意識の啓発、災害時の情報通信体制の充実、防災資機材・食料の備蓄、治山・治水対策の促進など、総合的な消防・防災体制の確立に努めます。

## ⑥ 防犯・交通安全

犯罪や交通事故のない住みよい村づくりに向け、関係機関・団体との連携のもと、村民の防犯意識の啓発や自主的な防犯・パトロール活動の促進、村民の交通安全意識の啓発や交通安全施設の整備など、村一体となった安全・安心対策を推進します。

## 2 健やかで安心なふるさと鮫川

- |        |         |
|--------|---------|
| ①保健・医療 | ④障がい者支援 |
| ②子育て支援 | ⑤地域福祉   |
| ③高齢者支援 | ⑥社会保障   |

### ① 保健・医療

村民一人ひとりが健康寿命<sup>※5</sup>を延ばし、生涯にわたっていきいきと暮らせるよう、食生活など生活習慣の改善に向けた村民の自主的な健康づくり活動の促進や健康診査・指導等の推進をはじめ、きめ細かな保健サービスの提供を図ります。

また、国民健康保険診療所について、医師の確保をはじめ、本村の医療拠点としての機能強化と保健サービスとの連携に向けた取り組みを進めます。

### ② 子育て支援

子どもの数が急速に減少していく中、若い世代が出産や子育てに夢を持ち、安心して子どもを産み育てられるよう、「さめがわこどもセンター」を核に、保育サービスの充実や子育てに関する相談・学習・交流機能の強化、放課後の子どもの居場所づくりをはじめ、村全体で子育てを応援する体制の一層の充実を図ります。

※5：介護が必要な状態にならないで自立して生活できる期間

### ③ 高齢者支援

高齢化が急速に進む中、高齢者が生きがいを持って元気に暮らせるよう、また、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、社会参加や介護予防に向けた施策を推進するとともに、福祉サービスや介護保険サービスの提供体制の充実に努めます。

### ④ 障がい者支援

障がい者ができる限り自立し、自分らしくいきいきと暮らせるよう、村民へのノーマライゼーション<sup>※6</sup>の理念の浸透、障害者の社会参加に向けた施策を推進するとともに、福祉サービスの提供体制の充実に努めます。

### ⑤ 地域福祉

すべての村民が地域で支え合い助け合いながら安心して暮らせるよう、地域住民や福祉団体等による見守り活動、生活支援活動などの地域福祉活動の促進に努めるとともに、すべての人が安全に安心して暮らせるよう、公共施設のバリアフリー化<sup>※7</sup>を進めます。

### ⑥ 社会保障

村民が健康で文化的な生活を営み、安心して老後の生活を送れるよう、国民健康保険や国民年金、生活保護などの社会保障制度の周知と適正な運用を図ります。

※6：年齢や障がいの有無などにかかわらず、だれもが普通の生活を送れる社会こそ正常であるという考え方

※7：段差の解消をはじめ、物理的・心理的な障壁（バリア）を取り除くこと

## 3 活力と交流に満ちたふるさと鮫川

- ① 農林業
- ② 観光・交流
- ③ 商工業
- ④ 雇用対策
- ⑤ 消費者対策

### ① 農林業

本村の基幹産業であり、村づくり全体を牽引する農業の維持・発展に向け、農業生産基盤の一層の充実や担い手の育成・確保による経営体制の強化を進めながら、「まめで達者な村づくり事業」の継承と発展等による農業の6次産業化<sup>※8</sup>や地産地消の一層の展開、「有機の里づくり」のさらなる推進による有機農業の確立と循環型社会の形成をはじめ、有害鳥獣対策の推進などの取り組みを一体的に推進します。

また、木材生産機能をはじめ、水源のかん養や生活環境の保全など森林の持つ多面的な機能が持続的に発揮されるよう、森林組合との連携のもと、適正な森林管理・整備を促進します。

## ② 観光・交流

観光・交流人口の増加による村経済の活性化、観光・交流から定住・移住への展開に向け、「鹿角平観光牧場」や「館山公園」をはじめとする観光・交流資源の整備充実、有効活用に努めるほか、特色ある農業の村としての特性・資源を生かした農業・農村体験、都市や大学等との交流促進や農家民宿の一層の展開、「食」をテーマとした観光・交流機能の強化を重点的に進めます。

## ③ 商工業

人口減少や少子高齢化等を背景に商業環境が厳しさを増す中、商店街の維持・存続に向け、商工会の育成に努めながら、村民（みんな）の店「すまいる」の充実促進、高齢化を踏まえた地域密着型の商業活動の促進、人が集まるルートづくりの検討などに努めます。

また、既存事業所の経営の安定化を支援していくとともに、環境・景観と共生する企業等の立地促進に努めます。

## ④ 雇用対策

若者の地元就職やU・J・Iターン<sup>※9</sup>の促進に向け、関係機関との連携のもと、情報提供や相談、地元企業への働きかけ等に努めます。

## ⑤ 消費者対策

悪質商法や詐欺等による被害の未然防止と解消に向け、関係機関との連携のもと、消費者への情報提供や相談の充実に努めます。



※8：第1次産業である農業が、生産だけにとどまらず、加工品の製造・販売や地域資源を生かしたサービスの提供など、第2次産業や第3次産業まで踏み込むこと

※9：Uターンは出身地から地域外へ出た後に出身地へ戻ること。Jターンは出身地から地域外へ出た後に出身地以外の近隣地へ戻ること。Iターンは出身地にかかわらず住みたい地域へ移り住むこと

## 4 人と文化が輝くふるさと鮫川

- ①学校教育
- ②生涯学習
- ③スポーツ
- ④文化芸術、文化財

### ① 学校教育

子どもたちが明日の本村を担う人材として心身ともにたくましく成長していくことができるよう、保・幼・小・中・高の連携や、学校と家庭・地域の連携を強化し、本村の優れた自然や「農」、「食」などの教育資源を生かした特色ある教育活動の推進をはじめ、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力など「生きる力」を育む学校教育を推進します。

さらに、国際化時代、交流の時代に対応し、小・中学生の体験型英語研修施設への派遣や村民主体の身近な国際交流活動の促進に努めます。

また、県立修明高等学校鮫川校については、村の活性化に欠かせない重要な教育施設として、存続のための支援を継続するとともに、特色ある学校づくりに関する働きかけなどを行います。

### ② 生涯学習

すべての村民が生涯にわたって学び続け、自己を高め、その成果が地域社会に還元される生涯学習社会の形成に向け、大学やNPOとも連携しながら、村民ニーズに即した学習機会の提供や自主的な学習活動の促進に努めます。

また、青少年が心身ともに健全に育成されるよう、学校・家庭・地域の連携強化のもと、青少年の体験・交流活動への参加促進、家庭・地域の教育力の向上に向けた取り組みを進めます。

### ③ スポーツ

村民一人ひとりが生活の一部としてスポーツや健康づくりに親しめるよう、農業者トレーニングセンターをはじめとするスポーツ施設の整備充実に努めるとともに、スポーツ団体の育成・支援、スポーツ教室・大会の充実等に努めます。

### ④ 文化芸術・文化財

生きがいに満ちた暮らしの確保と鮫川文化の継承・創造に向け、文化団体による自主的な文化芸術活動の促進や文化芸術にふれる機会の提供に努めます。

また、「木造薬師如来立像」や「渡瀬の獅子舞」をはじめとする有形・無形の貴重な文化財の保存・活用、地区ごとの祭りの再興、歴史民俗資料館の充実に努めます。

## 5 生活基盤が整ったふるさと鮫川

①土地利用

③道路・公共交通

②住宅施策、定住・移住

④情報化

### ① 土地利用

優れた自然や農村環境・里山景観と村民生活、産業活動とが調和した良好な地域環境を形成し、村の一体的発展を図るため、適正な規制・誘導等を行い、計画的な土地利用を推進します。

### ② 住宅施策、定住・移住

定住・移住の促進と鮫川村らしい魅力的でゆとりのある住生活の実現に向け、需要と供給のバランスに配慮しながら住宅施策を計画的に推進します。

また、これら住宅施策と連動しながら、空き家情報の提供をはじめ、定住・移住の促進に向けた効果的な取り組みを検討・推進します。

### ③ 道路・公共交通

交通利便性・安全性の向上と村全体の活性化に向け、国・県道の整備を関係機関に積極的に要請していくとともに、村道の維持補修、橋梁の長寿命化、除雪体制の維持・充実に努めます。

また、公共交通については、村民の日常生活に欠かせない移動手段として、村営バス「あおぞら号」や民間路線バスの維持・確保を図るとともに、国民健康保険診療所の送迎バスも含めた村内の公共交通のあり方について検討し、その充実に努めます。

### ④ 情報化

村民サービスの向上と自治体経営の効率化、村全体の活性化に向け、これまでの取り組みを生かした行政内部の情報化を一層推進するとともに、全村的に整備された光ファイバ網を利活用した情報サービスの提供を図り、電子自治体の構築と村全体の情報化を一体的に進めます。

また、通信事業者との連携のもと、全世帯で携帯電話が利用できる環境整備について検討・推進します。



## 6 ともにつくるふるさと鮫川

- ①男女共同参画      ③協働の村づくり
- ②コミュニティ      ④自治体経営

### ① 男女共同参画

男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を發揮できる男女共同参画社会の実現に向け、男女平等意識の啓発や政策・方針を決定する場への男女の参画促進、男女間のあらゆる暴力の根絶に向けた取り組みを推進します。

### ② コミュニティ

地域住民自らによる地域課題の解決や個性豊かな地域づくり、支え合い助け合う地域づくりに向け、行政区や組単位でのコミュニティ活動の活発化に向けた取り組みを推進します。

### ③ 協働の村づくり

村民と行政とが知恵と力を合わせた協働の村づくり、村民団体やNPO、民間企業等の多様な主体がともに公共を担う村づくりを進めるため、広報・広聴活動の一層の充実による情報・意識の共有化をはじめ、各種行政計画の策定や公共施設の管理、公共サービスの提供等への参画・協働の促進、村民団体・NPOの育成など、村民と行政との協働体制の一層の強化を図ります。

### ④ 自治体経営

自治体を取り巻く環境が厳しさを増す中、限られた経営資源を有効に活用し、地方分権時代に即した自立した村を創造し、持続的に経営していくため、事務事業のさらなる見直しをはじめ、組織・機構の再編、定員管理の適正化、職員の能力開発、財政運営の健全化など、さらなる行財政改革を積極的に推進します。

また、効率的な自治体経営の推進と村民サービスの向上に向け、周辺自治体との連携のもと、今後の広域連携のあり方について調査・研究を進めます。



将来像を実現するためには、「第3章 施策の方針」に掲げた29の施策項目ごとの取り組みを総合的に推進することが基本になりますが、本村の特性・資源を生かし、個性と魅力をさらに高める視点、村民ニーズに的確に応える視点に立ち、第4次鮫川村振興計画において、分野横断的な対応等により、村一体となって特に重点的に取り組む8つの「重点構想」を定めました。

1. つながりでさめがわ回帰
2. 中心市街地・空き家・集落対策
3. こども・若者・女性の定住
4. 多様な働き方
5. つながりで顔の見える交流
6. 新しい農業観による農業振興
7. 地域自給自足の理念
8. 観光資源の整備充実による賑わい創出

各重点構想の主な内容は次のとおりです。

また、この「重点構想」を構成する具体的な施策については、基本計画（前期基本計画・後期基本計画）の中に主要施策として重点的に盛り込み、限られた経営資源の重点配分を図り、積極的に推進していくこととします。



## 1 つながりでさめがわ回帰

鮫川村とつながりのある人々、歴史や伝統・文化とつながりたい人々の帰郷や移住促進

### 産業分野

#### ② 観光・交流

- 一過性の交流から移住を前提としたふるさと体験交流へ（農家民宿への定期的滞在）
- ふるさと回帰留学制度  
（NPOが運営主体、移住希望の親子と村の里親をつなぐ。NPOが学習・生活支援）

#### ④ 雇用対策

- さめがわ回帰ふるさとおこし協力隊の募集  
（仕事や能力で村の振興に貢献できる人材→3年間雇用→その間に生活基盤確立）

### 生活基盤分野

#### ② 住宅施策、定住・移住

- 全国鮫川村出身者帰郷意向調査の実施  
（各世帯の協力を得て調査対象名簿の作成、アンケート調査実施）
- さめがわ回帰・移住の専門員配置  
（受け入れ環境の整備、将来の回帰も今から計画的に支援）
- 村、地区、集落で移住者受入れについて検討する「さめがわ回帰・移住」条件整備事業の実施
- さめがわ回帰支援基金の造成  
（ふるさと納税も活用、移住の準備、移住後に定住する場合の教育支援）
- 集落内にふるさと回帰者用の農地付宅地エリアの確保
- ふるさと回帰・移住希望者の宅地取得、空き家下見、空き家改築支援

## 2 中心市街地・空き家・集落対策

創意工夫で生き生きとした生活空間を守る

### 生活環境分野

#### ① 環境・景観・エネルギー

- 景観や安全に影響する空き家の撤去



## 保健医療福祉分野

### ③ 高齢者支援

- 暮らしの安全安心のための生活支援（集落除雪協力体制支援等）

## 産業分野

### ③ 商工業

- 移動販売、宅配の充実
- チャレンジショップの開設
- 事業所事務所の中心市街地に移転推奨

## 生活基盤分野

### ② 住宅施策、定住・移住

- 条例による空き家対策
- 空き家対策専門支援員の配置  
（空き家の相続者・親族等の具体的な悩みに可能な限り対応、将来NPO化）
- 集落管理の賃貸空き家住宅の整備  
（集落維持のため受入れ条件が整っている場合に限り、改築助成）
- ふるさと回帰希望の職人・技術者などの空き家、空き店舗利用促進
- 中心市街地、空き家、集落対策と連動した分譲地造成や住宅建築支援

### ③ 道路・公共交通

- 歩道、融雪溝、地中熱利用融雪道など道路機能の強化

## 協働行財政分野

### ④ 自治体経営

- 過疎地域の生活維持に必要な不可欠な事業は、不採算であっても財源等や実施方法の創意工夫で実施に努める。

### 3 こども・若者・女性の定住

こどもが夢を持ち若者や女性が自己実現できる環境をつくる

#### 保健医療福祉分野

##### ② 子育て支援

- 医師及び専門職の確保、定住条件の整備
- アトピーなど病気をもった乳幼児を安全安心に預かり保育できる環境の整備検討。
- 安全安心で大人の見守りや高齢者との交流がある児童公園や広場などのこどもの居場所づくり

##### ③ 高齢者支援

- 高齢者とこどもや若者がつながる生きがい対策

#### 産業分野

##### ③ 商工業

- 村にない業種でこども・若者などから要望のあるものについては、過疎地域ならではの創意工夫で実現に努める。

#### 教育文化分野

##### ① 学校教育

- こどもの貧困対応型学力向上支援  
(村の学力向上サポーター等による放課後・土日の学習機会の提供)
- 平均点以上確保型学力向上支援 (村独自の教員、学力向上支援員等による指導)
- 創造力が身につく教育
- こどもの意見に耳を傾ける。  
(生活者としてのこどもの意見を聞くことが将来の定住につながる。)
- 教育制度の見直しによる一貫教育やこどもの減少に対応できる将来の施設・機能の一体化を構想する。
- 東京行き片道切符の教育から往復可能な教育へ
- 就学援助、通学費支援、奨学金の充実

##### ② 生涯学習

- こどもと大人と一緒に学び伝統文化、文化芸術活動できる施設・機能の整備
- 広い教養や知識、技能を実際に身につけられる環境の整備  
(さめがわ塾・グローバル経済対応)
- こども、若者、女性から高齢者まで学びの核となる図書館機能の強化

### ③ スポーツ

- こども、若者、女性などが多様な運動ができる環境づくり

### ④ 文化芸術・文化財

- 村内で一流の演奏家による室内楽や有名な劇団による公演などに親しむことができる恵まれた環境の維持。
- 文化団体の高齢化に対応するためこども・若者・女性と一緒に活動できる施設・機能の整備
- 都市の劇団、演劇、芸能グループ等とこども・若者の連携により伝統芸能の継承策を模索する。

## 生活基盤分野

### ① 土地利用

- 村の中心部にスポーツ、教育、若者エリアの設定。コンパクト化と複合化による利便性とあらゆる世代の交流を促進し、村民の健康増進、文化の振興、教育の向上を推進する。

### ② 住宅施策、定住・移住

- 中心市街地に若者や女性が暮らしやすい高齢者や地域住民との交流のある施設・機能の整備

## 協働行財政分野

### ③ 協働の村づくり

- 次世代村づくり委員会の常設（若者・女性）

## 4 多様な働き方

伝統食や生活文化を掘り起こしまめな仕事をたくさん創り定住を促進

## 生活環境分野

### ① 環境・景観・エネルギー

- 環境公社等（農業法人・NPO等）を立ち上げ雇用の拡大

### ④ 公園・緑地、緑化

- 環境公社等（農業法人・NPO等）を立ち上げ雇用の拡大

## 保健医療福祉分野

### ② 子育て支援

- 子育てで困っていることを仕事にする

### ③ 高齢者支援

- 高齢者が困っていることを仕事にする

### ④ 障がい者支援

- 障がい者が困っていること、障がい者ができることを仕事にする

## 産業分野

### ① 農林業

- 農業の高齢化を補う農業公社、農業法人などによる雇用の拡大
- グリーンツーリズムNPOの設立で雇用拡大

### ② 観光・交流

- 鮫川村を訪れた人々がお金を使う仕組みを創る。
- 鮫川村を訪れた人々がお金を使う場所を増やす。

### ③ 商工業

- コミュニティ活動や生活支援と結びついた商業の支援

### ④ 雇用対策

- さめがわ仕事づくり協議会
- 村の暮らしで困ったことから仕事を創るためのアンケート調査

## 生活基盤分野

### ② 住宅施策、定住・移住

- 空き家、空き店舗などを利用した事業活動の支援

## 協働行財政分野

### ④ 自治体経営

- 法律で行政がしなければならない仕事以外、指定管理、委託、移譲などで村民の雇用を増やす。

## 5 つながりで見える交流

農村文化と都市の人々がつながる見える交流で移住や人材・仕事の誘致を促進  
及び村民の技術や知識を高める

### 産業分野

#### ① 農林業

- 交流を農業の振興につなぐ
- 個々の農家の強みを十分に生かした農家民宿の展開
- 大学との連携交流を技術導入、特産品、商品開発等の農業の6次化につなげる。

#### ② 観光・交流

- マスツーリズムではないまめな暮らしを体感できるスローなツーリズムの振興

#### ③ 商工業

- 大学や企業とつながり人材や技術の交流で、質の高いサービス、商品、製品の提供・開発につなげる。

#### ④ 雇用対策

- 交流を仕切るツアーコンダクターの役割を若者の仕事に発展させる。
- 交流専門員やNPOなどによる継続的に質の高い移住につながる交流ができる仕組みを創る。
- 東京都北区の住民とのスローフードパーティやこどもの給食試食会などを通してさめがわの食をPRし健康移住（アトピーを治すためなど）につなげる。

### 協働行財政分野

#### ④ 自治体経営

- 東京都北区民と鮫川村民が自治体の規模に関係なく抱える医療福祉介護などの問題や都市と農村という環境の違いから相互補完できる課題などについて住民どうしの交流を通じて相互協力で解決していく仕組みづくり

## 6 新しい農業観による農業振興

### 食と農と環境がつながる懐の深い農業の推進

#### 生活環境分野

##### ① 環境・景観、エネルギー

- 自然エネルギーの活用によるエネルギー自給農業
- 農業の6次産業化の推進で美しい環境と景観を保全
- 農村環境の整備を公共投資で行い、これをテコにして農業の振興を図る  
(環境公社等)

#### 保健医療福祉分野

##### ① 保健・医療

- 人の食性と調和したデンブン食を基本とした食生活の復権
- 伝統食や食術の継承

#### 産業分野

##### ① 農林業

- 食と農と環境を統合した農業観をもった農業の推進
- 6次産業化のための投資支援、小さな投資・小さな商品化を応援
- 農村環境の保全で農業を振興
- 日本人の遺伝子に刻まれた米を中心にした食の復権
- 多様な農業の形態を受け入れる社会的土壌の醸成で後継者の確保

##### ② 観光・交流

- こだわりの農業でこだわりの消費者とつながる

##### ③ 商工業

- 商工業と農業の連携

##### ④ 雇用対策

- 主たる雇用が揺らいでいる兼業農家の受け皿の整備  
(農業環境公社・農業法人など)

## 教育文化分野

### ① 学校教育

- 食と農と環境の教育

### ② 生涯学習

- 高齢者から学ぶ食と農

## 生活基盤分野

### ① 土地利用

- 再生可能エネルギーで農業を振興するための土地利用

### ② 住宅施策、定住・移住

- 新規就農希望者の受け入れ体制の整備（衣食住から農業指導まで）

## 協働行財政分野

### ③ 協働の村づくり

- 地域おこし協力隊を中心にその他協力者ととも村づくりの実行主体を形成し、NPO等の組織化につなげる。

## 7 地域自給自足の理念

### 循環型農業や自然エネルギーを活用したエネルギーの地産地消の推進

## 生活環境分野

### ① 環境・景観、エネルギー

- 自然エネルギーの活用でエコな暮らしの実現

## 産業分野

### ① 農林業

- 循環型農業と自然エネルギー活用で持続する農業
- 家畜糞尿、生ごみ、雑草などでバイオガス発電

### ③ 商工業

- 地域内経済循環で生活インフラを守り育てる

## 生活基盤分野

### ① 土地利用

- 農業振興に寄与する再生可能エネルギー基盤としての農地利用

## 8 観光資源の整備充実による賑わい創出

### 農村の暮らしまるごと観光資源

## 生活環境分野

### ① 環境・景観、エネルギー

- 強滝、江竜田、天狗橋の景観保全のための環境公社等

### ④ 公園・緑地、緑化

- 館山公園の整備と管理のための環境公社等

## 産業分野

### ① 農林業

- グリーンツーリズムを発展させる主体の形成（農業公社・NPO など）
- 集落や農家民宿と連携したクライン・ガルテンの推進
- 農家民宿を核とした農村の日常観光の推進（集落行事への参加など）

### ② 観光・交流

- 鹿角平観光牧場のスポーツ・合宿エリアとしての整備
- 湯の田温泉の有効活用

### ③ 商工業

- おみやげ品の開発

### ④ 雇用対策

- 観光資源充実による雇用の拡大（維持管理のための公社、NPO等）



## 教育文化分野

### ④ 文化芸術・文化財

- 伝統行事、文化財、遺跡遺構の観光的価値の発見、活用

## 生活基盤分野

### ① 土地利用

- 昔の宿場を意識した中心市街地の土地利用の検討

